

小規模多機能型居宅介護「たすけあい小川」－見学記

利用者が地域で安心して生活し続けるためには利用者の多様なニーズに対応できる、通って、泊って、訪問する24時間対応型の地域密着型小規模多機能のしくみが求められています。しかし、実際にはなかなか設置がすすまないのが現状です。NPO・ACT 町田たすけあいワーカーズではこのような機能が必要だと感じていた矢先に市の募集を知り、すぐに応募、約1年という短い準備期間を経て開所したと聞き見学に伺いました。5月に開所したばかりで、地域の利用者に周知をはかり利用を呼び掛けていくことが当面の課題ですが、これから地域密着型のサービスを利用者にとって利用しやすいしくみにしていく工夫に期待します。

町田駅からバスで約15分、町田街道の近くの「たすけあい小川」は淡い黄色の外観で、緑色の窓枠と出窓には季節の草花が飾られた南仏風の明るい雰囲気建物です。玄関を入ると、左側はキッチン、リビング兼活動室、奥には和室など



道路沿いにはトーテムポール風の塔があり、地域交流のための別棟となっている

の共有スペースとなっています。珪藻土の壁、リビングには大きな梁が縦横に走った吹き抜けの広々とした空間、和室との段差を利用した収納など、随所に天然の材料を使用し使いやすく工夫され、アイデア満載といった感があります。中庭に面した廊下は広々としたウッドデッキがあり、お茶をしたり草花を育てたり、季節の行事を楽しむなどこれから利用者と一緒に使いたいとのことでした。

廊下でつながった玄関右側は宿泊のできる居室ス

ペースとなっており、居室は伸縮性のハンガー掛け、小さな置台、ベッドが利用者にとって使いやすいよう配置されています。どの居室からも庭に出られるようになっており、開口部が広く風の流れを感じました。

心地よい空間づくりへの設計者と担当の方々の努力には頭が下がりました。この熱意は地域の利用者への居心地の良いサービスの提供につながっていくと確信します。地域が必要とする事業を着実に実現させていく関係者の熱意には、他市に住む私にとって、うらやましくもあり、見習うところが多々あると感じました。

橋本ノリコ（評価者）



リビング奥の和室は間仕切り用のレールがあり、個室にすることができ、宿泊用居室と合わせて、最大9人が宿泊できる



市民シンクタンクひと・まち社 10周年 記念講演&ティーパーティー



ひと・まち社がスタートして10年が過ぎました。
これまでの活動を支えて下さった皆様と共に記念の会を開催します。
自分らしく暮らすまち・さまざまな形・さまざまな生き方、
皆様からのご発言を頂きながら一緒に考える機会にしたいと思います。
ぜひ、ご参加くださいますようお願い申し上げます！

基調講演: 柏木博氏
2009年11月7日(土)13時から16時
国分寺駅ビル8階 サロン飛鳥(予定)

